

サッカー競技におけるシュート角度およびシュート前の選手の動きについてのゲーム分析

ー日本代表選手とドイツ代表選手を比較してー

大野 峻暉 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)

指導教員 望月 聡

キーワード：シュート，角度，選手の動き

1. 緒言

日本代表は長年「得点力不足」と言う課題が重くのしかかっている。アジア 2 次予選のシンガポール戦(2015年6月16日)ではシュートを 23 本も打ちながらスコアレスドローに終わるなど依然として得点力はあまり向上していない。一方、ドイツ代表は 2014 年のブラジル W 杯で優勝し、現在世界最強の代表チームである。そのドイツのリーグであるブンデスリーガ 1 部 2 部合わせて 13 名 (2016-2017 シーズン) の日本人選手が所属しており、欧州の国では日本と最も関わりの深いリーグとなっている。そこで、ワールドクラスのドイツ人選手と日々対戦しているにも関わらず、日本人選手はなぜ世界の舞台上で得点を挙げられないのか疑問に感じた。本研究によって、日本の得点力不足の原因を明らかにすることならびに、日本サッカーの得点力向上の手がかりを見出す一助となることを目的とする。

2. 研究方法

[研究対象]

日本代表：AFC アジアカップ 2015 オーストラリア大会 全 4 試合

ドイツ代表：UEFA EURO2016 フランス大会 全 6 試合

[研究方法]

両チームが、試合で打ったシュート位置および得点者の得点前の動き出しを VTR 分析した。また、今回は、サッカーのコートをゴールに向かう攻撃方向から見て、ゴール中心に向かって 30

度ずつ 6 方向に分類して入力し、それぞれの角度を A~F とした。サッカーのゲーム分析において、エリアを四角に区切って分類をすることが殆どであったが、本研究では角度と選手の動きに着目しゴールを中心とした放射状に分類した。

3. 結果および考察

両チームに共通していた傾向として、ゴールに近いエリアまで侵入していたことと、シュート数は多いが、得点数が少ないことであった。

また、日本代表選手の得点前の動きの特徴は、ドイツ代表と非常に似ていることがわかった。特に、クロス、中央エリアでの崩しが似ており、動き出しにおいては日本も世界の強豪国と同水準であることがわかった。両チームの選手の得点前の動きとして、相手の背後を取る動きと、相手の前に入る動きの 2 つの特徴が見受けられた。また、中央のエリアでのシュートよりも、角度のあるシュートおよびミドルシュートの有用性が考えられた。角度のあるシュートは、今後日本代表の競技力向上に大きく関係することが考えられ、追加検討課題であると言える。

引用参考文献

NikkanSports.com

坂本宗司 (2015) ブラインドサッカーのシュート角度および距離から見た攻撃スタイルについての基礎分析 バイオメディカル・ファジィ・システム学術誌 17(2), 59-66